



さくら通信

「学校経営紹介」号

令和2年6月23日

発行者 校長 梅田 和志



桜丘小学校の学校教育目標

～共に学び合い、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成～

3つのキーワードについて

① 共に学び合う＝学習への意欲

「学びたい」「もっと学びたい」と感じるときは、どんなときでしょう。まずは「知らない事」「興味をひく事・人」です。「ドキドキワクワク」が大切です。そのために、交流活動やゲストティーチャー、体験活動による学習を積極的を計画します。次に今までの経験をもとに(めあて)、「やってみよう」(自力活動)、「あれ?そんな考えもあるんだ」(話し合い活動)、「あっ、わかった。みつけた。」(ふり返り・まとめ)「かんたん」(練習・定着)。これを積み重ねていく事が学習です。学力とは、毎日の積み重ねによって獲得していくものです。本校は、「めあて」「自力活動」「話し合い活動」「ふり返り・まとめ」「練習・定着」を大切に積み重ねの教育活動を展開していきます。そして、今の自分を見つめ、他人との比較でなく昨日の自分を毎日少しずつ超えていくことで、より高い学びを身に付けさせることを目指します。

② 心豊かに＝思いやりの心

「思いやり」の第一歩は「おはようございます」「こんにちは」などの挨拶と「はい」「ありがとう」という返事・お礼です。挨拶は好ましい人間関係をつくる重要な窓口です。将来、大人になって可能性を実現する上で重要なスキルです。次に相手を思いやる心を表す言葉「ありがとう」「ごめんなさい」「だいじょうぶ」「がんばれ」につながっていきます。

本校はこのような同学年や他学年との関わりの中で「思いやりの言葉」を大切にし、「思いやりの心」を育てていきます。

③ たくましく生きぬく＝自立できる力

私たちは、子ども達が社会人・職業人として自立できるように子育て・教育活動を行っています。では、自立するのに必要な力とは何でしょうか。

まず、他人と繋がる力・コミュニケーション力を身に付ける事が大切です。そのために本校では、特別活動の「学級活動」に力を入れています。また、可能な限り多くの大人に関わる事で、感謝と将来への見通しをもつ事ができます。

次に、自信・やる気が大切です。子どもができた事・がんばった事を認め、褒める事で自信とやる気は育ちます。叱られたり、注意されたりばかりだと、叱られないように、失敗しないようにを心配するネガティブで消極的な子どもになってしまいます。子どもには、できるだけポジティブで前向きな言葉を投げかけていきたいものです。

さらに、周りの大人の言動が大切です。「子どもは大人(親)の鏡」です。大人の行動・口癖・態度をマネします。子どもにとって、よい鏡になりたいですね。

【本年度の取組の重点】

- ◆確かな人権感覚を育む
- ◆個々の教育的ニーズに応える
- ◆確かな学力と自信をもたせる
- ◆基本的な生活習慣と望ましい集団づくり
- ◆健康な生活を送るための体力
- ◆地域の教育力を活かす

【北九州市子どもを育てる10か条】

- ① 朝は明るく笑顔で「おはよう」
- ② 家族にも「ありがとう」と「ごめんなさい」
- ③ 子育ては褒める・叱る・見守る・抱きしめる
- ④ 聞くときは子どもの目を見て、心を聴いて
- ⑤ 食事が楽しみな家庭にしよう
- ⑥ 大切にしたい物より体験
- ⑦ まず親がきちんと実行 社会のルール
- ⑧ 声かけて 地域の宝 こどもたち
- ⑨ 教えよう 平和といのちと助け合い
- ⑩ 子どもと夢を語り合おう

※ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、教育活動の中止・変更を余儀なくされる中ではありますが、児童を中心に据え、できる限りの教育支援を行います。本校教育活動へのご協力を宜しくお願いします。